

適正な公共施設を次世代へ



プロフィール 志村高史 さん
 秦野市政策部公共施設マネジメント課長
 (地方自治体公民連携研究財団客員研究員)

先進地自治体に聞く 志村 高史 さん

三好市では、公共施設更新問題に関する講師として全国的に活躍されている神奈川県秦野市の志村高史さんを迎え、「公共施設更新問題への挑戦」と題し、研修を行いました。秦野市は、全国でもいち早く公共施設の更新問題に取り組み、コンビニエンスストアの庁舎敷地への誘致などが行なわれていますが、東京都からわずか60キロで人口動態や税金など財政運営も安定している自治体がある。なぜこの問題に取り組むのか？講演の中で特に印象的な発言を取り上げます。

【志村さん】 例えばこの池田総合体育館（研修会場）が、ずっとあると誰が保障できますか？

全国でも公共施設更新問題

漠然と思い込んでいる人がほとんどです。公共施設の多くは、都市化の進展や経済成長とともに集中的に整備されてきましたが、近い将来、これらの公共施設を一齐に更新する時期がやってきます。公共施設更新問題は、自治体財政が抱える時限バクダンといわれています。できるだけ早く対策に手をつけなければ、市民にも行政にも大きな痛みを与えます。自分たちの利便さや豊かさだけを求めて結論を送りつけることは、次世代に大きな負担を押し付けることとなります。今のままがいいのは誰でも思うこと。しかし現状から目をそらさず将来につけを残さないために、この課題を市民の皆さまに積極的に情報提供し、公共施設の更新問題に取り組むことが必要です。

秦野市は公共施設などの現況を把握し、人口減、高齢化による社会保障費増や老朽化する施設やインフラの維持管理、更新費などを財政試算し「すべての施設を維持することは不可能」との結論に至り、「公共施設の再配置の方針」をもとに長期的なビジョンで公共施設の更新問題に取り組まれています。

■ 公共施設の改修・建て替え費用の推計 ※ 総務省の公共施設等更新費用試算ソフトに基づく推計

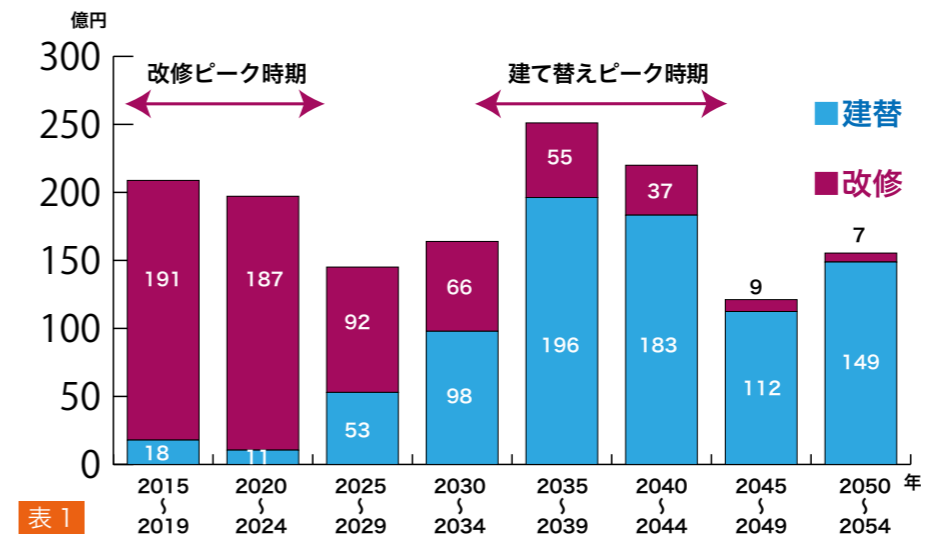


表1

今、全国の自治体では公共施設を含めた社会資本の更新問題を抱えています。これは高度経済成長期の人口増加に応じて、大量に整備された公共施設などが建て替えなどの更新時期を迎えたことに加え、市町村合併により同種の施設を複数保有したことが一因です。三好市においても同様に大量の公共施設を保有しており、古い施設も多くあります。少子高齢化や人口減を踏まえ、今後市民サービスを維持しながら、公共施設をどのように安全に有効活用していくかを考えていく時代を迎えました。

三好市の公共施設は620施設

三好市が保有する公共施設は、市役所庁舎や小中学校、観光施設などの大規模なものから、集会所や消防施設など小規模なものまですべて合わせると620施設、延床面積は約36万平方メートル（甲子園球場の9.4個分）です。

と、施設数の多い順では、集会所、公民館などの「市民文化系施設」が196施設、次いで「公営住宅」が97施設、「行政系施設」が85施設となっています。

公共施設の市民1人当たりの延床面積は12・29㎡。全国平均の3・42㎡と比較し、過大な状態です。

更新費用に 毎年約36億円

仮に本市が保有する施設をすべて維持した場合、今後40年間の更新費用総額は1463億円、平均年額は36・6億円と試算されます。これは、過去5年間の公共施設の整備に要した経費（平均年額15・4億円）の約2.4倍に相当する金額です。

数値目標

今後10年間で公共施設（建築物）の延床面積を15%（5万4000平方メートル）削減を目標数値とします。これは甲子園球場の約1.5倍の面積です。

今後の取り組み

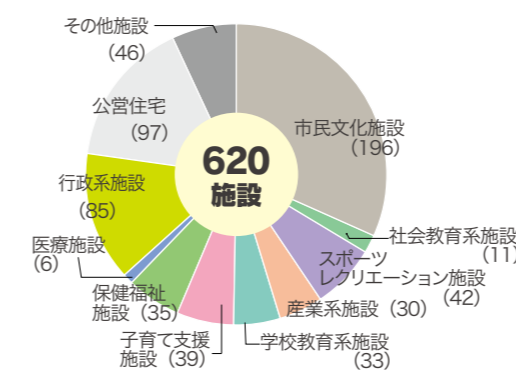
- ・市民アンケートを実施します。
- ・集会所、行政系施設など各施設分類ごとに具体的な個別実施計画を策定します。
- ・施設情報などをホームページにて公表します。

今後、市民の皆さまと共に公共施設の在り方を考えるため、情報提供を積極的に行ってまいりますので、ご理解ご協力をよろしくお願いいたします。

【お問い合わせ先】

三好市役所地方創生推進課
 電話 72・7607

■ 公共施設数の状況



■ 公共施設建築年別の状況

